

月刊 ゆがの通信

2018年3月号

発行：ゆがの薬局

股関節痛のための「五大生薬の漢方」

「活楽宝」(かしろくほう)

高齢化と股関節痛

膝関節痛にお悩みの方も多いと思いますが、近年、高齢者の間で深刻となっているのが股関節痛です。どちらの関節痛も加齢や運動障害によって引き起こされる症状ですが、股関節痛のほうがさらに高齢になってから起こります。何とか歩ける膝関節痛に比べて、股関節痛は鎮痛剤も効きにくく、歩くこともままならなくなり日常生活にも支障をきたします。

年をとると加齢により経絡のめぐりや血液の流れが悪くなるため全身に栄養や酸素が行き届かなくなり、内臓の働きが低下します。その結果、筋力が低下して骨や腱が弱くなったり、関節の軟骨がすり減りやすくなり痛みが出ます。



原因は「腎」と「肝」の衰え

老化が始まる年齢は、女性は七の七倍である四十九歳、男性は八の七倍の五十六歳からと言われています。このころから五臓の中でも老化防止を司る

「腎(じん)」が急激に衰えてゆき、六十歳くらいから股関節に違和感を持つようになり、七十歳くらいから痛みがひどくなるようです。

「腎」と「肝」を養って骨筋を強くする「五大生薬の漢方」

漢方では老化しにくい体作りと耐久力のある骨、筋肉のバランスを整えることを目指しています。特に五臓のうちでも骨や骨髄を司る「腎」と筋肉や筋膜を司る「肝(かん)」の衰えを養うことで股関節痛の起きにくい体を作ることができると考えています。また「腎」と「肝」の働きが良くなることで膝関節や足首などの関節痛の予防になります。

痛みを緩和し、「腎」と「肝」を養う生薬として「五大生薬の漢方」があります。

- ・海風藤(カイフウトウ)、経絡の巡りをよくして、痛みやしびれをとる。
- ・豨薟草(キレンソウ)、経絡の巡りをよくして痛みやしびれを緩和する。筋骨に力を与え、炎症をとる。
- ・穿山竜(センザンリウ)、血流をよくしてこわばった筋肉をゆるめる。
- ・臭梧桐(シユウゴトウ)、湿気や低気圧による痛みやしびれをとる。
- ・木瓜(モッカ)、こわばった筋肉をゆるめて痛みやしびれ、こむらねりをとる。

るめて痛みやしびれ、こむらねりをとる。

「五大生薬の漢方」を飲んで痛みがとれた後は続けて飲む必要はありません。ただし股関節痛は加齢によるものですから再び股関節に違和感が出てきた時には早めに「五大生薬の漢方」を飲むようにして下さい。股関節痛が和らぐとともに体調が整った、筋肉のこわばりやしびれが良くなった、腰痛や膝痛がよくなったなどの声も聞かれます。

もうすぐさわやかな春の季節になります。痛みを根本から治して、元気を取り戻しましょう。



イスクラ産業「活楽宝」(健康食品)
三六〇丸入り(一か月分)
六、二〇〇円十税



(C) イスクラ産業株式会社

「活楽宝」についての相談や質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「こころがワクワクするとからだも元気に」

やる気がおこらない、イライラしやすい、心配事ばかりで不安、うつ、眠れない方
ケアバランスでこころを安定させ健康な毎日を送りましょう



1ヶ月分 8200円(税込)

ゆがの薬局

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>